

## 北の商人塾

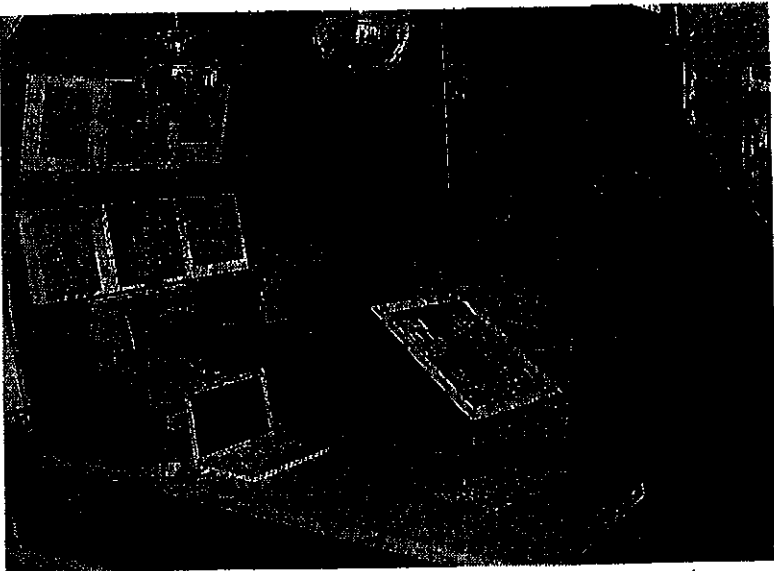
魅力アップした店で おもてなし

# 参加店 成果披露へ

## 15日から各店でイベント

繁盛店の創出で創路市の中心市街地活性化を目指す「北の商人塾」に参加した商店が、その成果をお披露するイベント「夢中で商いウィーク」を15日から22日まで行うことが決まった。イベントでは、各店独自の企画をお客を「おもてなし」する。

(荒井純)

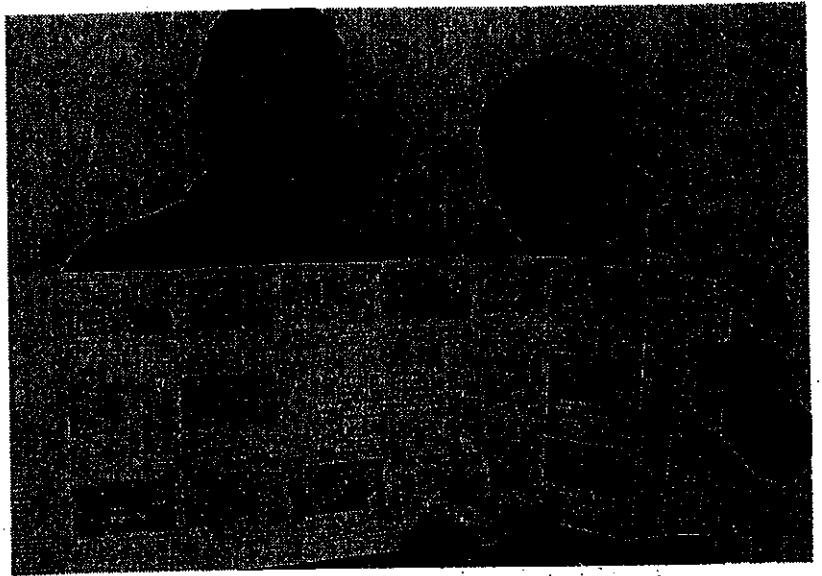


昨年12月に行われた臨店指導(若松町の写真の山一)

「北の商人塾」は、大型店にはない専門店ならではの魅力を高めることで、商店街を盛り上げようという有志による勉強会で、創路市中心市街地活性化協議会の主催。北大通や若松町、和商市場、MOOなどの17店26人の塾生と4店7人の聴講生が参加した。講師は山梨県甲府市など全国各地で商店街活性化の「商人塾」を開いている都市マーケティングの武雄信夫さんで、塾生は理論を学ぶ講義10回と実際に各店で行う「臨店指導」を昨年10月から受けていた。臨店指導を受けた塾生の店では、陳列商品を厳選して見せたいものを目立たせたり、

入口付近のガラスに張っていったステッカーをはがして通りからの見通しをよくし、さらに接客テーブルを置くなど、お金をかけずにできることから、少しずつ改善に取り組み、中には売り上げが増えたという店もある。また、「お客目線」で自分の店を見られるようになったなど、塾生自身の意識の変化も大きかった。今回実施するイベントは、一度来店してもらったことで「店が変わった」ということを覚えてもらおうというもので、「重い荷物を台所まで届ける」「時計や宝飾品のクリーニング」「土鍋での炊飯実演」など各店が独自に企画する。

イベント参加店は、丸相原商店、まるいち佐藤商店、カネカ柿田商店(以上和商市場)、メガネ・時計・宝飾力ナタ、写真の山一(以上若松町)、メガネの早川、フティックアズベリー、陶器のみすの、カネシマ池田信真店、さきさき画廊、なかつら靴店、ミヤケ模型、大谷時計店、山一佐藤紙店、丸玉畑洋服店(以上北大通)、マルナカ中野物産(MOO)の18店。「夢中で商いウィーク」の実行委員会(山口敏夫委員長)ではイベントの詳細を記したポスターやチラシ、参加店を紹介するリーフレットを製作中。



店主のイラストが入った参加店のマップ

# 北の商人塾 専門店の魅力知って

## 15日からの店紹介のマップ作製

各店の魅力向上で中心市街地を活性化させようと取り組んでいる「北の商人塾」の塾生の店を紹介するマップが、このほど完成した。改善の成果をお披露目するイベント「夢中で商いウィーク」が15日から始まるのに合わせて作

製したもので、参加店や創路市内の公共施設などで配布している。北の商人塾は、「シャッタ—の内側の改革」を進めようという意欲ある中心街の店主や従業員が集まり、昨年10月から講師を招いて勉強会や商

品の見せ方などの指導を受けてきた。

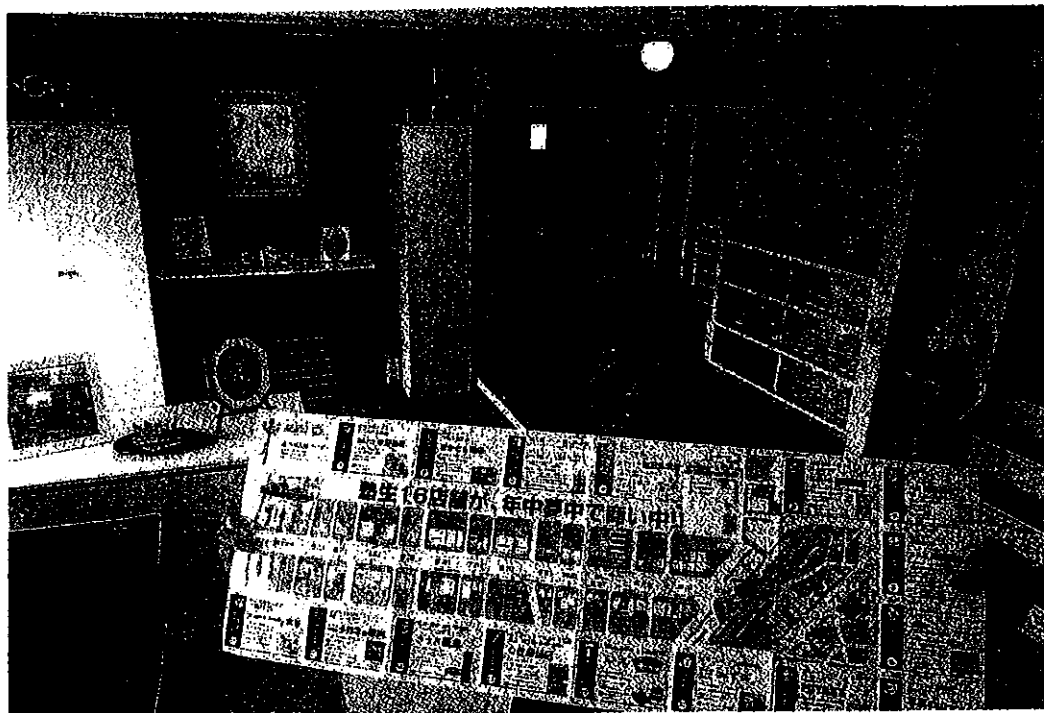
マップには創路駅北口の若松町から幣舞橋にかけての地図やイベントに参加する16店の店主のイラストがついた店紹介を掲載しているが、すべて塾生たちのアイデアをもとに作製した。北の商人塾参加で商店街の枠を超えたつながりが持ったという塾生が、仲

間の店を紹介するのにも活用するという。

「夢中で商いウィーク」は、普段はなかなか足を踏み入れにくいと感じる専門店を一度のぞいてもらおうという企画。22日までの期間中、専門店ならではのさまざまな体験企画などを用意している。

山口敏夫実行委員長は「北の商人塾を通して『お客様の生活をより楽しく豊かにするお手伝いをしたい』という共通の思いを持つことができたいがあるので、ぜひ一度足を運んで」とPRしている。

(荒井純)



生まれ変わった店内で地図を広げ、「多くの来客を待っています」と話す山口さん（大城戸剛撮影）

## 釧路・北の商人塾の成果発表

# 「夢中で商い」16店PR

空洞化が進む釧路駅周辺の商店街にかつてのにぎわいを取り戻そうと、昨秋開講された店主向けセミナー「北の商人塾」に参加した商店主が成果を発表する「夢中で商いウィーク」が15日から始まる。各店とも商人塾で店の魅力づくりに知恵を絞ってきただけに、来客の反応に期待を寄せている。

（渡辺史哉）

## 試食や商品体験

## 15日から8日間

北の商人塾は、釧路市中心市街地活性化協議会が昨年10月に開講。全国で商店街を活性化させた実績を持つ中小企業診断士の武雄信夫さんを講師に迎え、北大通などに出没する店主たちが約2カ月間、魅力ある店づくりのノウハウを学んできた。

武雄さんは店を1軒ずつ回り、商品や陳列方法などをチェック。これを受け各店は店のリニューアルに取り組んだ。釧路市若松町の「写真の山一」の山口敏夫店長（43）は、店内に並べていた貸衣装を別室に移設。「来店者から『店に余裕ができて、くつろげるようになった』と評判です」と手応えを話す。

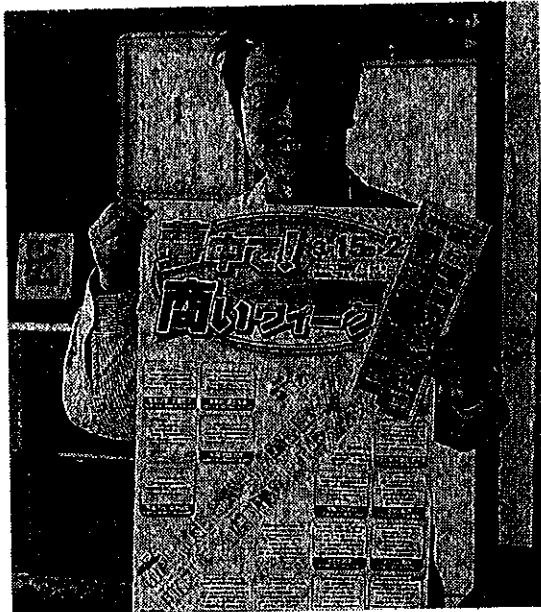
「夢中で商いウィーク」は、商人塾に参加した16店が同時に開くお披露目イベント。期間は22日までで、各店は試食や商品の体験コーナーなどの特別なメニューを用意、市民を出迎える。同協議会は16店を紹介する地図も作成、釧路駅や釧路フイチャー・マンスワーフ・M.O.O.などで配布中だ。

イベントの実行委員長を務める山口店長は「今は期待と不安が混じった気持ちだけど、市民に『こないにお店があったのか』と感じてもらえればうれし」と話している。

北の商人塾

# 市民に成果を披露

22日までお披露目イベント  
夢中で！商いウイーク！！



「ぜひ」来店を」と、ポスターとマップでPRする  
山口実行委員長

「北の商人塾」の受講生が、

これまでの取り組み成果を発表するお披露目イベント「夢中で！商いウイーク！！」を本日15日（月）から開催する。

「北の商人塾」は、当所に事務局を置く釧路市中心市街地活性化協議会が事業主体となり、シャッターの内側（＝店内）の改革を目指して、昨年10月に開講した。

講師の武雄信夫氏（旬クオールエイド代表）の指導で、講義での商業理論の習得と臨店指導と自店での実践・試行錯誤を繰り返して、魅力ある店

づくりに取り組んできた。

今回のお披露目イベントは、北の商人塾を受講した若松町、黒金町、北大通の中心街に店舗を構える16店の店主らが実行委員会を立ち上げ準備を進めてきたもので、これまでの取り組みの成果を市民に見てもらおうと、皆で意見を出し合いながら、店舗の魅力を紹介するマップやポスターを作り、PRしている。

また、期間限定の特別メニューや特典も用意した。実行委員長の山口敏夫さん（柳山）写真スタジオ代表取

締役）は、「専門店は敷居が高いと思われがちだが、これをきつかけに気軽に来店してもらい、専門店の良さを体感・堪能してもらえれば」と期待している。

また、「商人塾は自分の店をどのように表現するかを考える機会となり、専門店の素敵さと深さを改めて知った。店舗での指導も受けられたので、スタッフも同じ方向を向いて全員で取り組むことができた」と振り返り、「店の個性やイメージを固めていけるように、今後も努力していきたい」と話している。

お披露目イベントは22日（月・祝）まで行われる。

# 専門店の良さを知って

繁盛店創出で中心市街地活性化を目指す「北の商人塾」参加店によるイベント「夢中で商いウィーク」が15日から始まった。22日まで釧路市若松町、釧路和商市場、北大通、MOOの16店舗で実施している。

イベントは、これまで取り組んできた店の改善成果をお披露するのが目的。この機会に一度店に足を運んでもらうことで大型店と違う専門店の良さを知ってほしい、と各店が独自に特

## 釧路市中心市街地 16店舗がイベント

典や体験メニューを用意した。

例えば、和商市場の相原商店と佐藤商店、柿田商店の3店では買い上げの商品を台所まで届けるサービスを行い、時計店のカナタでは機械式ムーブメントの分解・組み立て体験、ミヤケ模型では高価な工具の体験などを行っている。また、陶器のみずのでは「土鍋でも簡単においしいご飯がでる」とを知ってほしい、「炊飯実演を行い、「飯を

## 特典や体験メニューなど企画

店に置かれた茶碗によきつて提供していた。このほか、メガネの早川、フティックアズベリ、中野物産、池田仏具店、ささき画廊、なかむら靴店、大谷時計店、佐藤紙店、畑貝服店、写真の山一でそれぞれ企画を行っている。

商人塾の参加店は、昨年10月から10回にわたる講義と臨店指導を都市マーケティングコンサルティング会社の武雄信夫さんから受け、お金をかけないでできる改善を実践してきた。和商市場の相原商店では来店者が宛名書きの際に座るいすと机を置くことも、「魚

を切っている間にお客さんに書いてもらえよう」とと発送品に付けられるメッセージカードを渡すようにしたという。(荒井純)

期間中、万年筆の試し書きができる佐藤紙店

